

エゼキエル書 18 章 25－32 節 「立ち帰って、生きよ！」

「立ち返る」とは、「悔い改める」という言葉が使われております。今日の箇所は、まさに「立ち帰って、生きよ」が中心メッセージです。紀元前 500 年代、ユダヤ民族たちの国は、多くの預言者の警告にもかかわらず、分裂し、外国の侵入にも晒され続けます。そして最後は神の罰として「バビロン捕囚」の出来事が襲ったのでした。首都エルサレムが陥落する直前の時。人々は 2 節のことわざを口々に唱えていました。「先祖が酔いびどうを食べれば、子孫の歯が浮く(2 節)」。これは、先祖が犯した罪の罰を子孫が受けるという意味です。滅亡する自分たちは、まさに先祖が犯した罪のせいで神から罰を受けている、だから仕方ないと諦めていました。これに対して神さまは預言者エゼキエルの口を通して、民のこの考えを改めさせます。今こそ悪から離れて神に立ち返れ、そうすれば必ず生きる、と。

イスラエルの民が滅亡の悲劇に遭遇しているのは、先祖たちの罪が原因で今自分たちはその罰を受けているという見方でした。先祖たちの罪、それは偶像崇拜、供え物を食べる、他人から奪い取ったり負債を抱える者に情けを示さないこと、不倫を行うことなど、神の意思や掟に従わないことです(5～21 節)。なんだか現代の日本の社会のことを言っているみたいですが、どうでしょうか？神は、こうしたことをやめて神に立ち返る生き方をしなさい、そうすれば死なないで生きるのだ、と言われます。裁きは罪を犯した者だけに関わるのである、と。だから、お前たちがこれから神の意思に沿うように生きることとは無駄なことではなく、お前たちは死なずに生きることになるのだ、と。だからこそ、罪の責任は先祖や他人のものは、もう自分は負わなくてすむことになります。そうすると、今度は永遠の命に迎え入れられるかどうかを決定づけるのは、他の何ものでもない自分自身だ、となります。

悔い改めて生きる。このメッセージは私たちに向かって語られています。自分たちは悪くない、自分たちの先祖が罪を犯して、自分たちはその罰を受けている。エゼキエルはそのような民に向かって、誰でも神に立ち返る必要がある。一人一人が悔い改めて生きるのだ、と力強く語りかけています。神の願いは、自分が苦しむのは神のせいだと言って責任転換する生き方ではありません。むしろ悔い改め、すべてのそむきの罪を捨て、不義に引き込まれることがないようにする(30 節)。そのような悔い改めの人生を生きることです。そのような者に、神は新しい心と新しい霊を与えくださるのです。神の願いは、一人一人が神の前に罪を認め、悔い改めて生きることです。イエスさまの働きもそのためのものであったと言えます。イエスさまは私たちのために十字架にかかり、罪の赦しを与えてくださいました。キリストは私たちのために尊い命を捧げてくださった。その犠牲のゆえに私たちの罪が赦される。そのことを信じる信仰を、私たちは持っています。私たちも、キリストを信じて罪から解放されて生きています。もう一度聖霊の働きに心を開きながら、私に新しい心と新しい霊をお与えてください。そのように願いながら、日々新たにされて生きる者でありたいと願っています。悔い改めて生きる者に、神は、惜しみなく新しい心と新しい霊を与えてくださるお方だからです。